

北房ほたる公園整備方針

令和5年10月

真庭市北房振興局

北房ほたる公園整備における基本的な理念

「ホタルの生態が学べ、ホタルを通して人と自然が共生できる場」

「子どもから大人まで誰もが集い交流できる癒やしの空間」



1. 概要と背景

北房ほたる公園（以下、公園）は、平成 5 年に完成した「日本一のホタルの里づくり」を目指している北房地域のシンボリックな施設であります。

ホタルの観賞スポットであり、公園内のホタル館には展示室があり、学びにつながる機能があると共に、立地も市民に親しみやすい場所となっており、親子連れが遊具で遊んだり、池の鯉にえさをやったり、また高齢者がランドゴルフなどできる地域住民の交流の場でもあります。

また、公園周辺の河川にゲンジボタル、公園内のホタル池から流れる小川にはヘイケボタル、山沿いの鍾乳洞近くにはヒメボタル、また光らないオバボタルも生息しており、300m圏内の備中川沿いに4種のホタルが生息しているのは全国的にも非常に珍しいことです。

この公園は、北房地域を代表する地域資源であるホタルを、半世紀前から大切に守り保護してきた地域住民の誇りとホタルの生態などを学ぶことができる場所であり、また子どもから大人まで広く集える癒やしの空間であり、お互いの交流により親睦を深めることができる場所の両方の機能を備えた施設であります。

北房地域では、令和3年に策定した北房地域振興計画の中にある『全国に発信する「日本一のホタルの里づくり」』と『子どもも大人も学び続ける「学びの里づくり」』を目指しており、北房ホタル保存会を中心としたホタルを守る活動や子どもたちに故郷教育にもつなげる場として「ホタル館」を充実させて欲しいといった要望があります。

また、平成30年に北房小学校・こども園が開校・開園し、その際に旧小学校と旧幼稚園保育園が使われなくなっており、身近にあった遊具のある場所が失われているのも現状であり、住民からは「親子が気軽に遊べる場所がほしい」「遊具を充実させてほしい」といった声が上がっています。

一方で、人びとのライフスタイルや価値観が多様化するにつれて、これからの公園に必要なこととして、地域住民の様々なニーズにも対応する事が求められます。そのためにも地域住民と一緒に公園を管理し支える仕組みづくりが大切となります。例えば、ホタルを保護する活動を通して子どもたちが地域の環境や公園を守ること、グラウンドゴルフをする高齢者が自分たちが使用するグラウンドの環境整備を行うことなど、住民自らが自分たちの地域にある公園を愛し大切にすることで、みんなの公園としての意識を将来につなげていきたいと考えます。

2. 整備の目的

公園の整備にあたり、キーワードとして「日本一のホタルの里づくり」「学びの里づくり」「子どもの居場所づくり」を掲げて進めます。

展示スペースを広げ、内容をグレードアップすることにより、これまで培ってきた公園の価値であるホタルの保護活動や人の生活との関係性を、地域の子どもたちや来訪者へ正しく伝えます。

また、親子が気軽に遊べる場所として、現在の遊具から「真庭らしい木材を使った複合遊具」に改修することで、より多くの利用者呼び込み、さらに同公園におけるホタルの学びや環境保全、郷土愛につなげることを目的

とします。

3. 整備の方向性

公園の改修整備に向けて方針を定めるために、地域住民や PTA 保護者、ホタル保護活動をする団体や地域づくり団体等の意見を把握するために、市民意見交換型のワークショップ「北房ほたる公園について話す会」（以下「話す会」）を実施しました。多くの意見が出されましたが、その結果「ホタルを守っていると感じる場所」「子どもたちや親子が集える場所」という共通認識ができました。

なお、子どもから高齢者までの誰もが楽しみ親しめるユニバーサル機能を備えた公園として整備します。

○「ホタルを守っていると感じる場所」としての整備の方向性は以下のとおりです。

- ホタル館の改修 …… 既存の展示スペースが狭小であるため、現在倉庫として利用している室を縮小し、展示スペースを拡大、年間を通し学べる題材を取り入れます。
- 照明設備の改修 …… ホタル館内外の照明をホタルに配慮した優しい色で LED 化します。ホタルシーズン時の配慮（人感センサーなど）を行います。
- 植栽・柵の改修 …… 景観にも配慮した上で、ホタルシーズン時に問題となっている自動車のヘッドライトが、ホタルの繁殖行動に悪影響を与えないための、光を遮る植栽や柵の改修・設置をします。
今ある樹木を活かしながら、将来を見据えた植栽を行います。
(公園内を流れる小川にもホタルが生息しており、小川への配慮も必要です。)

○「子どもたちや親子が集える場所」としての整備の方向性は以下のとおりです。

- 集える場 …… 子どもたちが自ら考えて遊べる場とします。
- 遊具の改修 …… 既存の遊具を、真庭らしく木材を使用した、現在のものよりも大型の複合遊具に改修します。
- 遊具の新設 …… 公園敷地内にホタルをモチーフにした遊具の設置を検討します。

これらのことを踏まえ、そのため、以下 2 つの理念が重要であるとしています。

「ホタルの生態が学べ、ホタルを通して人と自然が共生できる場」

「子どもから大人まで誰もが集い交流できる癒やしの空間」

A.ホタル館（情報発信・観光・価値の創出）

北房におけるホタルを軸とした自然教育は、文化として根ざしたものであり、ホタルをはじめとする自然との共生・共生は北房の人たちにおけるアイデンティティの一部を担っているといえます。

「話す会」においても参加者の多くの発言内容には、ホタルへの愛着やこだわりが見て取れ、郷土北房の自然への愛を伺い知ることができました。その郷土愛は正にホタルの保護活動につながっているものと考えます。

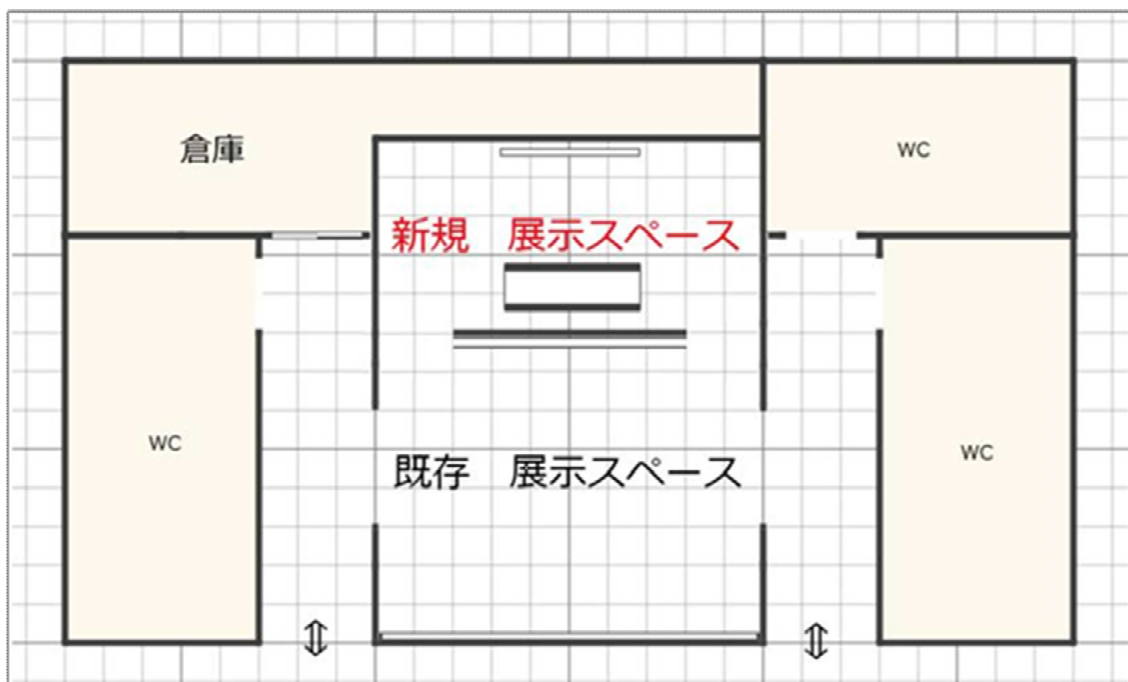
その郷土愛となるホタルへの関心は、小学校教育でのホタル学習などをはじめとした地域学習が根源となっており、学習施設としての公園の価値は非常に高いものであるといえます。

これらのことから、これまで培ってきた公園の価値である保護活動を今後の地域の子もたちや来訪者へ正しく伝え日本一のホタルの里と名乗るための施設として、現状のホタルの生態を示すだけの展示スペースでは不足気味であり、保存活動についての情報や人の生活との関係性を伝えることができるような内容へのアップグレードが必要であります。展示内容については、北房ホタル保存会など関係者との協議も行い、ふさわしい展示となるよう検討します。

具体的な改修案は以下のとおりです。



図 1.ホタル館改修案（倉庫部分を少なくし展示スペースを拡張、展示スペースからトイレ入口が隠れるよう配慮、トイレ戸の開け放しも頻発しており改善が必要）



B. 遊具（学び・大人も子どもも・親しみ）

住民の交流の場、活躍の場、そして「公園」というものの本質として憩いの場と人の集う場であることが必要であるといえます。「話す会」の参加者からは、遊具についての言及がとて多く、公園の機能として遊具施設の必要性和その充実を図ることの重要性を感じられました。

平成 30 年に閉校となった旧小学校や旧幼稚園保育園などの、身近にあった遊具のある場所が失われており、子どもを屋外で元気に遊ばせる事ができる場として、また、地域で育てることで、より高度なコミュニティ形成をすることができる場として整備することが必要と考えます。

特に、現状の幼児のみが対象となる遊具ではなく、幼児から小学生までが対象となる複合型の遊具の整備が必要です。

整備にあたっては、公園の自然を感じられる木製複合遊具の導入を検討すべきと考えます。

また、地域の交流拠点としての活躍が期待されるほたる公園には、地域から愛され親しまれるシンボルとして、ホタルをモチーフとしたものがほしいとの意見も多くあり、設置検討を行います。

C. 遊歩道周辺（大人も子どもも・憩い・健康づくり）

公園内東側に位置している遊歩道周辺は、藤棚が老朽化していたり、樹木の成長に伴い遊歩道に凹凸が生じたりしています。公園の散策という観点から、遊歩道周辺の整備も欠かすことができません。従来から公園を象徴するモニュメントもこの場所にあり、遊歩道周辺を整備することで、より郷土愛を育む公園となります。

また、池から流れ出る小川に生息しているヘイケボタルにも配慮した植栽および遮光できる機能が必要であり、ホタルにとっても優しい整備を行います。植栽の際には、先々のことを見据え、計画的に行います。

なお、ほくぼう健康づくり実行委員会によるウォーキングコースの 1 つである「ほたるコース」のルートでもあり、より一層の健康効果を求め、健康遊具の設置も検討します。

4. おわりに

この公園を訪れる人が、ホタルを見に来るだけでなく、ホタルの生態や一生を学べることができ、またホタル愛にあふれ大切にしている地域住民の活動や思想や人とホタルとの関わりを学び理解し、さらには、ホタルの気持ちになり、ライトや光をホタルにあてない優しい振る舞いをしてもらえるような整備を行いたいと考えます。さらに、ふれあい広場や東屋周辺といった、用途を制限せず住民の自由な発想で活用できる場所が存在していることも周知を図り、多くの人に親しまれる公園を目指します。

また、子育てアンケートにも多くの意見があったように、遊具を充実することにより多くの親子連れ、お孫さん連れの人達が訪れ、ホタル愛、郷土愛が芽生えることを念願しています。

付録 「北房ほたる公園について話す会」について

公園の改修整備に向けて方針を定めるため、まず住民の意見を把握する必要がありました。北房ほたる公園となると、近隣住民や親子連れだけでなく、当然ホタル保護活動をする団体や地域づくり団体の意見も重要であります。そこで、ほたる公園の改修整備を前提とした市民意見交換型のワークショップである「話す会」を実施し、地域住民の意見を広く募集し、ほたる公園のあり方について考える場としました。

（開催実績）

第1回 2022年10月06日（木） … 参加者 10名

第2回 2022年10月13日（木） … 参加者 13名

※いずれも北房振興局 2階大会議室にて午後7時～午後9時に開催



「話す会」は、北房地域振興計画に中にある『全国に発信する「日本一のホタルの里づくり」』と『子どもも大人も学び続ける「学びの里づくり」』を念頭に置いて行いました。それぞれの意見は立場によってバラエティに富んでいましたが、大枠として北房ほたる公園は、「ホタルを守っていると感じる場所」、「子どもたちや親子が集える場所」であるという共通認識が参加者同士、また参加者と市職員間でできました。





「北房ほたる公園について話す会」を踏まえて作成されたイメージボード